

第3回 情報推進常任委員会会議録

令和5年10月24日(火)
委員会 議室

○会議日程

- 1 開会宣告(10時45分)
- 2 協議事項
(1) こども議会の実施及び質問内容の確認について
- 3 閉会宣告(11時40分)

○出席委員(8名)

委員 長	3番	深澤	博幸
副委員 長	2番	佐藤	忠志
委員	1番	高橋	秀明
委員	4番	高橋	秀之
委員	5番	植村	敦
委員	6番	無量谷	隆
委員	7番	齋賀	弘孝
委員	8番	西澤	裕之

○議会事務局出席者

事務局 長	岡田	英樹
事務局 次長	藤田	秀紀
主 任	横山	薫

深澤委員長

本日の出席議員は8名です。

定足数に達しておりますので、ただいまより、第3回情報推進常任委員会を開会します。

その前に議会報ですが、昨日、最終校正が終わりまして、昨日、印刷に出すことができました。11月の町の広報誌に掲載することができました。委員の皆様、大変御苦労さまでした。

本日の調査事項ですが、子ども議会の実施及び質問内容の確認について、協議したいと思います。皆さんには、一人ひとり質問をスクリーンに映していきますので、その場で、内容や字句を直しながらいきたいと思いますが、子供らしい言葉遣いや自分なりの言い回しなどは極力直さず、生徒たちの言葉を大事にしていきたいと思いますので、よろしくお願ひします。それでは、1人目から始めます。

岡田事務局長

それでは、まず、1番最初なんですけども、秋山楓華さんの質問となっております。

内容は、これ、画面に出てるとおりですけれども、何か、一応、内容はこのようになっています。

深澤委員長

何か意見のある方は、挙手の上、指名を受けてから、マイクのスイッチを押して発言してください。

この質問に対して、何か御意見ありませんか。

西澤委員

ここ、私が担当したところですので、補足させていただきます。

カプセルトイというのは、ガチャガチャになります。そこは、人気があるというほかの町村を事例に、幌延町の特産品も、こういうことをしたらいいんじゃないかっていうことを言いたいってということで、こういう質問なっています。

岡田事務局長

この質問なんですけど、最後に、政策を実施していただきたいと考えますってなってるんですけども、ほかの子の質問でいきますと、こういう取組をしてはいかがでしょうかですとか、こういう方法を模索するのはどうでしょうかとか、取り組んでみてはいかがでしょうかとかいう書き方にしてるんですけども、いただきたいと考えますっていう言葉をそのままにするのか、ちょっとほかの子に合わせて、幌延町で取り組んでみてはいかがでしょうかみたいなこういう言い回し、政策を実施するようなことを考えていないんでしょうかとかっていうような、こういうふうにした方がいいのか、それともこのままでいった方がいいのか。いかがでしょうか。

斎賀委員

秋山さんが最初からこうやって書いてきたんですか。

岡田事務局長

今回載せてるのは、学校から来たものをそのまま載せております。

西澤委員

直すとしたら、政策ではなく、施策かなと思うので、あそこはいいんですか。

政策って、何かもうちょっと大きいことですもんね。これ、個別で言うと、施策になるのか、でもいいことなのかなあ子どもだから。

実施していただきたいと考えますをどうするか。

深澤委員長

実施っちゅうのは、決め言葉なんだよな。するかしないかだべ。ちょっと、オブラートに包んだような言い回しの方がいいんじゃない。

岡田事務局長

例えば、カプセルトイを設置する考えはありませんかとか。

深澤委員長

うん。その方が、答えやすいんじゃない。

政策だら、できないって言われるもんな。

アイデアだけ取上げて駄目だべさ。

西澤委員

そうですね。使ってない言葉を入れるのは駄目だよな。

(「これでいい。」の声あり)

深澤委員長

これで決定だ。

(「オーケーです。」の声あり)

はい。これに決定しました。

岡田事務局長

次は、朝日永遠さんの質問になります。

藤田事務局次長

局長、質問を読み上げてはどうですか。

岡田事務局長

そうですね。

現在の幌延町にはトナカイ観光牧場や、ふるさとの森キャンプ場などの観光地がありますが、SNSを活用してのPRはあまりされていません。幌延町の各SNSのアカウントのフォロワー数はユーチューブで約300人、インスタグラムで約90人、Xで約1,250人とあまり多くありません。動画の内容は観光地で体験できる内容で、例えばトナカイへの餌やりなどを紹介する幌延町の観光PR動画や、イベントで行ったステージをユーチューブチャンネルやインスタグラムで公開したりできれば多くの人に見てもらうことができ、知名度の向上につながるので、幌延町としてSNSを活用してのPRを行っていただきたいです。という内容です。

西澤委員

いいんじゃないですかそのまま。

岡田事務局長

ただ、先ほどの秋山さんの質問と同じように、最後のところ、PRを行っていただきたい

ですってということなので、ここもPRを行う考えはありませんかというようにしてはどうでしょうか。

深澤委員長

これで決定よろしいですか。

(「はい」の声あり)

岡田事務局長

次、伊藤さんです。

私はこざくら荘にあるペレットボイラー施設について提言します。現在ボイラー施設では林業廃棄物である剪定枝と、使用済紙おむつを混ぜペレットとして、それを燃やすことによって熱を作り出しこざくら荘内で活用しています。しかし、現在の方法では煙や匂いが発生しています。実際にその近くを通った際にも感じたので近隣住民やこども園を利用されている方は日頃から感じているのではないのでしょうか。そこで、近隣住民にアンケートを取ってみたり、酸素を供給できる設備を設置して空気比を調節したり、250℃以上で燃焼させたりできると煙やおいを減らすことができるので、このような方法を模索するのはどうでしょうかという内容です。

西澤委員

いいんじゃないですか。

深澤委員長

ちなみに私が、若干提案した質問なんです。

匂いは、あんまりしていなかったと思うけどね。

西澤委員

近くに行ったら、しますよ。

深澤委員長

1回、町部局に、このことで伺ったら、何回もフィルターを変えているんだと。

だけど、これ以上、もうよくはならない。改善されないというのが現状みたいですね。

だけど、このまま放置していいのかということですよ。

(「いいんじゃないですか。」の声あり)

じゃ、これで決定します。

岡田事務局長

次は、伊藤菜那さん

幌延町には『おもしろ科学館』や『名林公園まつり』など、いろいろなイベントがあります。しかし新たにイベントを企画し開催すれば、町民が楽しめる場になると思います。私は「食」をテーマにしたイベントを開催できれば良いと考えました。幌延町には時折キッチンカーが来ており、幌延町民もよく利用しているので、多くのキッチンカーを呼べば更に利用者が増え、町民の食卓も多種多彩になると思います。また、チラシを幌延町以外にも出せば観光客も増えるのではないのでしょうか。そして、地元の食材等を活用した料理にできれば、地元の企業にも貢献できると思います。このような取組をしてはいかがでしょうかという内容になってます。

高橋秀明委員

最後の方に地元の企業にも貢献できると思いますっていうところがちょっと弱いような感じだったので、この質問自体を否定するつもりはないんですけども、ちょっと弱いかな。

外部から呼んでってというのが、ちょっと引かかるところなんですけどね。

深澤委員長

ちなみにその地元の食材って何なんなのかっていうのがあるよね。

もう少し具体的に提案してもらえばよかったね。言ってることは分かるよね。

高橋秀明委員

PRの仕方も考えなきゃならないかなと思う。チラシだけで本当に増えるのか。

深澤委員長

チラシ以外にしたら。

いや、違う。チラシも含めてだな。何かPRの方法。

高橋秀明委員

その前の質問にもあったように、SNSとかを利用した形っていうのも、一つかなと思うんですけども。

無量谷委員

これ俺も担当して、ある程度、伊藤さんが言ってたのちょっと抜けてたかなと思うんだけど、キッチンカーを集めて、キッチンフェアっていうものを開催してやったらどうかっていう意見も出てたんだけど、文書にはなってなかったなっていう感じがするんですけど。

深澤委員長

その多くのキッチンカーっていうところだな。多くというのは、どのぐらいの台数なのかな。

無量谷委員

今、全道のキッチンカー集まれって言えば、結構、台数は集まるのかなって。今はブームですから。その辺は、声掛けはできるんでないのかなという感じはしています。

ただ、公的に、できるかできないか、これちょっとね。今までは、店屋さんが1軒2軒ポツポツと、たまに土日だとかそういうような感じで来てたりしてるんですけども、台数をたくさん集めて、1回、フェアをやったらどうですかっていう意味合いだったと思ったんだけど、それを年間通して定期的で開催したらっていう感じは、女の子は言ってたはずなんだけど。

岡田事務局長

ここで、食をテーマにしたイベントを開催できればよいと考えましたとなっていて、その下に、多くのキッチンカーを呼べば、さらに利用者が増えるってありますので、この部分が、最後にこのような取組というのが、このキッチンカーを呼び込んだイベントということで。

高橋秀明委員

なんか、イベントが随分多すぎる。

高橋秀之委員

なんか、イベントイベントって、それおかしくない。言葉として。

前のイベントはいいけど、後のイベント、それを何かに変えるとか。

岡田事務局長

私は食をテーマに、多くのキッチンカーを呼び込んだイベントを開催できればよいと考えましたってということで、いかがでしょうか。

(「うん。」の声あり)

藤田事務局次長

あと局長、事業内容で色々って平仮名のほうがいいのではないのでしょうか。

岡田事務局長

そうですね。

深澤委員長

これで決定します。次。

岡田事務局長

小田さんの質問です。

私は、いま幌延町にいるトナカイを活かしきれていないと感じました。

冬は、クリスマスで、トナカイのお仕事は増えると思います。しかし、夏になると、トナカイを中心としたイベントがあまり無く出番が少ないと感じました。そこで、私は幌延町のトナカイをもっと知ってもらうために、トナカイをモチーフにしたソフトクリームを作ると良いと感じました。ソフトクリームにトナカイの角の形をしたクッキーを乗せるなどした、トナカイをイメージしたソフトクリームをホロカルやトナカイ観光牧場に置くと夏でも、トナカイを感じられると考えました。また、トナカイ牧場にある美味しいソフトクリームを更に改善して、今あるものを最大に活用して、特産物の一つにすることを幌延町で取り組んでみてはいかがでしょうかという内容です。

高橋秀之委員

特産物ではなく、特産品のほうがいいんじゃないの。

岡田事務局長

特産品にしますか。

(「オッキー」の声あり)

深澤委員長

オーケーが出ましたので、決定します。次。

岡田事務局長

加賀山さんです。

今の幌延町はこれといった観光地が少ないと思ったので、私はもっと幌延町へ観光に来る人を増やすために観光地を新しく建設してみてもどうかと思いました。そこで私は「ポケふた」を設置できれば観光客が来るのではないかと思いました。ポケふたとはポケモンのイラストを印刷したマンホールで、ポケモンの公式サイトからマンホールの取り付け依頼をフォームで送ることができます。またマンホールの取り付け・取替の費用はかかっていますが、マンホール自体の費用は無料なので取り組みやすいかなと思いました。ポケふたは近くの地域だけでも稚内市・豊富町・天塩町・猿払村が置いており幌延町も置くことで上記の市

町村から幌延町に来るというルートができるので、幌延町として「ポケふた」の設置を検討してみたいかがでしょうかという内容です。

深澤委員長

ちょっと私無知で分からないんだけど、費用無料っていうのはどういうことなのこれ。

西澤委員

よくそこは、分かんないんですけど、この子は調べたんですけど、予算のことも考えていて、取付けと取替えの費用が掛かりますが、マンホール自体って、多分、マンホール自体だと思います。絵があるんですよ。

齋賀委員

マンホールの蓋のことだよ。

深澤委員長

具材は掛かるんだべや。だけど、金属か何かで、できているんだべや蓋って。それ無料だっけか。

西澤委員

そうらしいんですよ。

深澤委員長

まさかよ。

高橋秀明委員

私が担当してたんだけど、本人が言うには、費用は掛からないと。だから、さっき心配された金属の値段だとかそういうのは掛かんないんで、設置費用だけ掛かって、ちょっと設置費用の面は、ちょっと追及して、私がしなかったんですけどね。それで付けられる。

西澤委員

ガンダムもあるんですよ。ガンダムのやつもあるんですけど。

深澤委員長

製作所っていうのは、どこに申請するのこれ。

西澤委員

だから、ポケモンのこのホームっていうところに申し込んで

高橋秀明委員

ただ、抽せんになるっていう話。

西澤委員

申し込んだら必ずってわけじゃないんですよ。

藤田事務局次長

これ、業者さんのPRになるから、コマーシャル代として、作ってくれるんでしょうね。

深澤委員長

だけど、著作権の問題あるべや。

ポケモンを書いているっていう著作権あるんだぞ。

西澤委員

だけど、公式なので、大丈夫なんです。公式のところ申し込んで、抽せんなので。御当地の絵と組み合わせるんですけど。

高橋秀明委員

何枚も来るわけではないんだ。

西澤委員

何枚も来ないですよ。

無量谷委員

一枚だ。

植村委員

それを、探して歩くということだ。

西澤委員

これ、お金が大人も好きなんで、だから、そういう人たちが、旅するんです。
マニアがいるんです。

深澤委員長

一つの構想としては、いいんじゃない。
できるできないは別にしてな。次。

岡田事務局長

次、金田さんです。

幌延町にある道道などを通っているとゴミが落ちていることを見かけます。

幌延町には観光客はもちろん、業者や大型車が多く通ります。そのため、ポイ捨てをされることで町が汚れ、景観が悪くなるので看板を設置したほうが良いと思います。

これまで町道では、落ちているゴミをボランティアの人々が拾っていますが、町道だけでなく道道のゴミ拾いもボランティアの人々や学校で行うクリーン作戦で行ってほしいです。また、ポイ捨てを抑制する看板をゴミのポイ捨てが多い場所に設置してほしいです。

看板には人目が付きやすいようなイラスト付きの看板が良いと思います。文字だけの看板になってしまうと字を読みきれないので、イラスト付きの方が直感的に抑制効果が高いと思います。

また稚内市でも海岸に抜ける道道106号線のところでは市の管轄外ですが警察署などが協力して看板を立てています。これを行うことにより生き物たちの住みやすい環境を作る姿勢やきれいになることで観光客から良い印象を持ってもらうことができるので観光客が増えると思います。

私達もイラストをかくなどお手伝いしたいと思いますが町長はどうお考えですかという内容です。

深澤委員長

ただ、ちなみに看板設置はしてるんだよね。だから、何ちゅうか、その辺をもう少し、強調してなんちゅうかな。

佐藤委員

これ担当したんだ。クリーン作戦をいろいろやってるんだけど、あえて書きたいっていうから、書いていいんじゃないかと言ったんだけど。ちょっと、文書が長くなったなと思って。

植村委員

意を尽くしているんじゃない。いいんじゃない。

深澤委員長

はい、決定です。次。

岡田事務局長

次、新野さんです。

私はふるさとの森にキャンプをしに来ている人の大半が大人だけで来ているのをよく目にするので、ふるさとの森を家族連れも来たいと思える場所にしたいと思いました。

そのためには家族連れでも楽しめるふるさとの森するために、家族連れでも遊べるように「とうまスポーツランド」のような自然を生かした遊具を設置してほしいです。

木でできた遊具の耐用年数はだいたい10年程度で一度建てるとかなりの期間使用できるので、長期的に見て有効であると考えます。また、キャンプをしに来た人たちが食材の調達に利用できるように、幌延駅に設置されているものを参考にして合鴨ジンギスカンなどの幌延町の特産品を自動販売機で販売すると良いと思いますという内容です。

深澤委員長

言ってることは、良いことなんで、ふるさとの森のスペースってあるのか。

西澤委員

もともとは、遊具があったので、もともとあった遊具を、老朽化で危険だということで撤去した経緯があるので、それを、知ってる子だと思うんですね。

なので、家族連れに来てもらうには、やっぱりそういう遊具が必要でしょうというような考えだと思います。これだけのスペースはないですけどね。

高橋秀之委員

良いと思います。

深澤委員長

町部局に、要請するっていう言葉が欲しいな。要請するか設置するかという考えがないのかっていうような。

植村委員

良いと思いますが、町長は、どう考えますかというような。

無量谷委員

遊具を増やすようなことはないかっていうこと。

深澤委員長

遊具ないんだべや。したって。

無量谷委員

いやいや、今はないけどさ、過去にはあったんだ。

深澤委員長

だから増やすんじゃないべや。設置だべやだから。

藤田事務局次長

これは遊具と自動販売機を設置してくれという話ですよ。

植村委員

そうだね。二つだよ。

深澤委員長

その二つという意味は分かるか町長。

いや、これで決定。したら次。

岡田事務局長

次は杉本さんです。

私はユーチューブショートをPRのひとつとして活用できればよいと思いました。

すでに幌延町で活用されているユーチューブの動画は撮影や編集に多くの時間を費やしていることと思います。しかし、ユーチューブショートにすると、動画自体は1分と短いので、撮影や編集も短い時間でできますし、トップページの目立つ場所にそれぞれの興味関心に合わせた動画が表示されるため、多くの視聴者にアプローチできます。

これらのことから幌延町でユーチューブショートを活用してはいいかという内容です。

深澤委員長

いいね。ちなみに、これ担当してるのは、どこの部署、役場で。

(「企画」の声あり)

植村委員

各課でやっているんじゃないの。

藤田事務局次長

ユーチューブは企画じゃないですか。地域おこし協力隊がやっていると思います。

岡田事務局長

幌延チャンネルはそうですね。

深澤委員長

いいです。次。

岡田事務局長

次、谷越さんです。

私は除雪の改革を行い、冬期に雪の影響で歩道が歩きづらい、生活通路が確保できないといったことが解消につながる事業を提言します。

まず、雪山の解体、生活通路の除雪を基本に行ってほしいです。

そのために例えば札幌市、稚内市、猿払村で行われている「除雪ボランティアの取組」がいいと思いました。しかし、ボランティア型にすると人が集まりにくいと考えられるので、実際に除雪を行ってくれる人材、トップに立って指示を行ってくれる人材を探さないと行けないという課題もあります。

そこで、まずは「幌延の窓」といった広報誌「知らせますケン」といった方法で、除雪車、除雪機を所有している方、指示を出してくれる方を募集する。ボランティア型ではなく給与型にし、ちょっとした運動感覚でやってもらえるように、行ってみたいかどうか。

願わくば、中学生もクリーン作戦や人権の花といった地域貢献のような項目で、活動できるようにになると、未来の人材確保に、なっていくと思います。町長はどうお考えですかという内容です。

植村委員

人権の花ってなんですか。

西澤委員

稲垣さんがやってるところで、学校に花の鉢植えを置いて、それに生徒方が水をやったりして、小学校も中学校もあります。稲垣先生がやっている団体があります。

深澤委員長

次。

岡田事務局長

谷藤さんの質問です。

私は現在の幌延町の課題点として、観光資源のマニアックさを感じました。

そのため「その土地でしかできないものを行う」という考えに重点を置いた旅行、A T (アドベンチャートラベル：『アクティビティ』『自然』『異文化体験』の3つの要素のうち、2つ以上を組み合わせた旅行形態)を宗谷管内の地域で協力して行うというものを提案したいと思いました。

それに加え、体験としてブルーポピーやぶどうを利用したハンドメイド体験、幌延町のふるさと納税利用率を増やすための特産物を利用した食事会、思い出づくりとしてトナカイとの写真撮影会の3つを提案したいと思います。

ハンドメイド体験に関しましては、トナカイとの撮影会と繋げ、写真立て作成体験などが良いのではないかと考えています。また対象を中年層にすることで、ある程度金銭面に余裕があり、普通の旅行を体験している人が多いと思うので来てくれる確率が上がるのではないのでしょうか。

幌延町でしかできないA Tを実施してはいかかでしょうかという内容です。

深澤委員長

異議なし。次。

岡田事務局長

次、田村さんです。

私は現在の公園においてある遊具がほとんど使用されていない状況をよく目にします。

平日や休日に使われていたとしても、使用している子どもの年齢層は小学校低学年の子どもに限られています。

その理由として考えられるのは、公園の遊具に対する聞き取りの対象が1、2年生だけだったので、小学校の中・高学年や中学生の子どもの意見は聞かぬまま低学年層の子どもばかりの意見を取り入れてしまい、遊べる対象が限られてしまったのではないかと思います。そしてこのままだと幌延町の子どもが公園などの外で遊ぶ機会が大幅に減ってしまうと思いました。

そこで僕は今ある遊具の他に中学年層や中学生の意見をアンケートを実施することで、幌延町のすべてのこどもの意見も取り入れれば遊んでくれる人が増えると思います。

幌延町の子ども全員にアンケートを取るなのでその結果を参考に、公園の遊具を充実させるために反映していただけますかという内容です。

植村委員

自分たちでアンケート取るから、結果を、考慮してくれということか。

深澤委員長

今、幌延の公園って1か所だけだかい。

(「名林公園だけ」の声あり)

深澤委員長

名林公園だけ。じゃ、公園というのは、あれで間違いないのかい。

西澤委員

さっき言った、ふるさとの森にも、少しあります。

(「間寒もある」の声あり)

齋賀委員

農村公園。撤去した。危ないから。

深澤委員長

だから、公園というところ一か所にしていいのかだから。

西澤委員

いや、そこは山村広場に直した方がいいかと思います。確かにそうですね。

深澤委員長

いや、それか、公園たくさんあるなら、その他の公園にするでもいいし。

西澤委員

いや、この子が言っているのは、山村広場の公園なので。

植村委員

去年もこんな質問あったんじゃないかい。

深澤委員長

これでいいですね。

(「はい」の声あり)

次。

岡田事務局長

次に中山さん。

私は中学1年生のときに西天北リサイクルセンターの埋立地がもうすぐ満杯になることを知りました。そして新たにごみの埋立地を建設するとなると自然環境を破壊してしまうと思いました。

新たに一般ごみをリサイクルする方法を調査したり、幌延町議会の議員さんとお話をする中で、資源ごみ以外の一般ごみをリサイクルするのは難しいと分かりました。なので他の対策として、紙おむつを集める範囲を広くしたらいいと思います。

私は西天北五町の介護施設やこども園などの事業所から集めた紙おむつと剪定枝をあわせてペレットを作り、ボイラーの燃料にしていることこれまでの地域探究で学びました。しかし、一般家庭からの紙おむつをリサイクルして埋立地の延命化を図っていくのが良いと思います。

埋められていた紙おむつの一般ごみが減り、資源として燃料に再活用できるのでこの紙お

むつ回収の範囲を拡大する事業を提案したいと思いますという内容です。

高橋秀之委員

これって、西天五町の話であって、これ町に関係する。そこがちょっと疑問なんですけど。

深澤委員長

組合長が町長なんで、関連して聞いても、子供質問だからね。っていう理解で俺ちょっと。指示はしたんだけど。

高橋秀之委員

組合長であっても、答弁は、町長として答えるんだから、いいのかなと思って。

こういう質問でなかったんでなかったかな。

深澤委員長

処分場の話も出てたんだよね。

処分場あれ、議会で説明を受けてるの俺。補足説明したんだ。

岡田事務局長

当初は、最終処分場を、新たに造るのではなくて、新たに造ると自然環境招くのでっていう質問でありました。

1回目の出前授業のときも、これは、西天北五町衛生施設組合で、一部事務組合なので、役場と別組織のことになるので、町長が、これを、はっきりとこうやりますっていうことは、話せないと思いますっていうことは、一応説明はしたんですけども。五町の一員として、西天北五町衛生組合の議会に、こういうことで取組を内部で話し合うように、今後、提案していきたいっていうような感じの回答になるのかなと思うんですけども。

深澤委員長

子供の希望だからさ、町長が答えられる範囲で、聞いてもらった方がいいんじゃない。

西澤委員

この質問を、町部局に提出するときに、注釈じゃないけど、一応そういうことの意味もあつた上で、この質問してるのでっていうことをちょっと付け加えてあげたら、町部局も拒否はしないとは思うんですけどね。

植村委員

町だけの問題ではないので、答弁できないということにはならないと思うんです。

西澤委員

そのとおりです。いいと思う。大丈夫だと思う。

岡田事務局長

次、村上さんです。

幌延町には町民が気軽に行くことができる、くつろげる場所が少ないと思います。

他市町村ではカフェや喫茶店のような町民や町外の方が気軽に立ち寄れる場所があり、特産品なども販売しているので、観光客集客や地元住民に愛されている場所があります。

幌延町もくつろげる場所をつくり、特産品を生かし、継続したカフェなどの場所を作った方が街は活性化するのではないのでしょうか。

しかし、新たに建設をすると時間もコストもかかってしまうため、既にある施設等を活用して町民がくつろげる場所をつくっていただきたいです。また、特産品を生かしたメニュー

やお土産等も販売できれば、町外からの観光客集客も見込めると思います。そしてこのカフェを作った際に、たくさんの人にPRするためにSNSを活用してPRをすれば良いと思います。そうすれば、町民も楽しめる場になりますし、珍しい特産品も沢山のの人に知られると思います。町長はどうお考えですかという内容です。

深澤委員長

下から3段目の「たくさんに」ではなくて、「の」だよな。
カフェって限定していいの。食堂も含まれた話の方が良い。

岡田事務局長

カフェなどですか。

深澤委員長

それでいいです。次。

岡田事務局長

次、渡部さんです。

幌延町は水質検査などを行っていただいているので水本来には問題がないことが分かります。

しかし私は幌延町の水道水がより安全に飲めるようになればいいと思っています。

水道管は古くから使われているものもあつたり、蛇口を捻った時サビが出てきたりなどの事例もあります。ですので塩素濃度や水質検査はそのまま行っていただき、更に水道管洗浄の頻度を上げることと水道管そのものを新しいものに交換するなどしてはいかがでしょうかという内容です。

西澤委員

あれ。水がまずいって話は削除したんですか。

深澤委員長

いや、それは、だから個人的な見解だからってということで、理解してもらって。次。

岡田事務局長

次に山口さんです。

私は幌延町にあるプラスチックゴミを減らしたいと思いました。

幌延町のプラスチック資源回収の実証試験の資料にプラスチックゴミの回収量を増やせるということが分かったので、この結果をもとにプラのマークの無いプラスチックゴミの回収を続けてほしいと思います。

他にも、町外から来る業者様、観光客様によるゴミの分別の問題があります。

ゴミの分別の問題を解消するためにイラストなどで、分別の説明があるゴミ箱をたくさんの方が集まる公園やキャンプ場などの公共の場に設置すると、分別の意識が高まると思います。町長さんはどうお考えですかという内容です。

深澤委員長

いいんじゃない。

藤田事務局次長

様いるんですか。業者様、観光客様。

西澤委員

多分皮肉も込めてるじゃないんでしょうか。違うのですかね。

深澤委員長

本人があえて書いたんだからこれ。これでいい。

佐藤副委員長

ただ、ごみ箱が問題かなと思います。

深澤委員長

今な。ごみ箱を設置するかっていう話な。

佐藤副委員長

ごみ箱を置くと、どうなのかな。また、山になってしまうのかなと。それを誰が回収するんだということですけど。

ただ、子供の意見としてだから、町長がどう答弁するか。

深澤委員長

このごみちゅうのは、ごみステーションに入ってごみ箱のことってんのかい。

佐藤副委員長委員

そこに、だから、分別してイラストを書いて、ペットボトルだよ。これはあれだよと置いたら、そしたら、ごみ減るんじゃないかって言うからさ、否定するわけにいかんし。

深澤委員長

ごみステーションに置いてあるごみなら、問題ないでしょ。

(フリートーク)

(「いいんじゃないのか。」の声あり)

次。

岡田事務局長

最後に、こちらの間寒別の中学生の橋本さんです。

私は、SDGsの5番のジェンダー平等について関心を持ち、男女共同参画について学んできました。

幌延町の取組について調べたところ、第6次総合計画の基本構想には掲げられているものの、重点戦略や町政執行方針には、具体的な施策を見つけることができませんでした。

他の市町村の取組を知るために、稚内市で長年取り組んでいる方にお話を伺いました。そこでは、推進委員会を設置し住民の意見を集めたり、講演会、パネル展などを行ったりしていることや、市会議員は18人中5人が女性であることがわかりました。

私は、本町でも議員に女性が増えたり、女性の活躍の場がさらに設けられたりすることにより、日常的に男女がともに活躍しているより良い町になれると思います。

町としては、今後、どのような取組をして、このことを進めていこうとお考えですかという内容です。

深澤委員長

議員の話、町部局に質問してどうだ。

植村委員

いや、まず、そういう空気を町として醸成していけるかという。

深澤委員長

齋賀の意見だべや。

齋賀委員

いや、これ初めて聞いたんだよ質問。
質問できないって言ってただけど。

西澤委員

いいんじゃないでしょうか。

深澤委員長

はい、いいです。

岡田事務局長。

ちょっと一つ気になるんですけども、このことを進めていこうとお考えですかっていうのが、このことっていうのがどこにあたるのかっていうのが、ちょっと分からなかったものから。

深澤委員長

ジェンダー平等でいいんじゃない。

岡田事務局長

ジェンダー平等が

深澤委員長

全体含むから。

西澤委員

このことって、省いたらいいんじゃないですか。
どのような取組をして進めていこうとお考えですか。

岡田事務局長

今後どのような取組をしていこうと考えていますか。

深澤委員長

はい。オーケー。

岡田事務局長

質問は以上になります。

あと今、精査しました質問につきましては、お昼から中学校に、もう1回お送りして、このようになりましたということで、あと、これでいいかどうか、中学校の方で確認してもらって、それで、中学校でもこれでいいですよってなりましたら、明日、町部局の方に通告をいたします。

こども議会なんですけれども、別紙の実施要項をお配りしてるんですけども、開催日につきましては、令和5年11月9日木曜日となります。

こども議会の議員数は、17名、幌延中学校が16名、問寒別中学校が1名、次のページですけれども、

深澤委員長

これに、日時の時間書いてないんでないか。

岡田事務局長

それで、次のページになります。

深澤委員長

ああそうか。

岡田事務局長

次のページで、7番のこども議会当日の日程なんですけれども、中学生は、9時に役場到着しまして、その後、町長室で挨拶してもらい、9時10分から事前リハーサルとして、議場のほうでリハーサルを行います。

そのあと、10分休憩しまして、9時半から、こども議員の自己紹介、あと、副議長から議員、あと副町長から職員の紹介をしていただきます。

そして、紹介が終わりましたら9時40分から、議会開会、ブザー合図をしまして、議長の挨拶をしてもらいます。

そして、9時45分から一般質問を始めまして、前半、8名、一人3分程度を予定しますので、大体10時10分ぐらいに、前半を終わる予定で、前半終わりましたら10分程度の休憩とりまして、10時20分から、後半の部ということで、一般質問9名を行う予定でいます。

一般質問が終わりましたら、こども議員による感想を述べていただいて、公表、公表は校長先生からいただく予定です。そして、副議長から挨拶をさせていただいて、最後は、議会を閉会して、記念撮影ということになります。

質問につきましては、いつも一人1問ということで、再質問は行わないということ。

あと、答弁に対する意見は、再質問については、後日、紙でもらって、町の方で回答するという流れになります。

次のページですけれども、その他ですけれども、当日、幌延小学校の6年生19名が傍聴に来られます。あと、中学校から来ている情報では、保護者の方15名が、傍聴する予定でいます。ですので、保護者の方15名ですと、傍聴席全員は入れると思うんですけれども、あと、一般の町民の方が来たりとかして、入り切れない場合は、保護者を、前半後半に分けて、傍聴席に入れられない方は、この委員会議室で待機してもらって、このようにスクリーンを用意して、議場の様子が見れるようにしたいと思います。

あと、こども議会の議長は、中山さん、朝日さんの2名で、前半後半で交代して行うことになります。

あと、質問の順番なんですけれども、先ほどの質問の精査しました順番で行う予定です。

深澤委員長

ということは、議員の集合時間は。

岡田事務局長

9時半から、議場で自己紹介とありますので、9時20分ぐらいまでには、集まっていたきたいと思います。

西澤委員

当日の、今までの流れだと、情報推進常任委員長が司会等をやっていて、副議長が、議員紹介ってなってるんですけど、多分、私、兼務してたので、そうなるんであって、多分これ情報推進常任委員会の事業なので、多分これ情報推進常任委員長が、やってたのかなと

思います。

今までは、9時、子供たちが来るときに、情報推進常任委員長が、そこにおいて、町長室に案内して、上に連れてくるというような段取りではやっていましたが。

深澤委員長

分かりました。

岡田事務局長

議員の紹介なんですけれども、去年は、一人一人挨拶していったんで、進行が深澤委員長にやってもらって、議員の紹介は、議員一人一人やってもらうということでよろしいですか。

深澤委員長

はい分かりました。

9時に一緒に行けっていいのはいいの。

岡田事務局長

委員長は、9時に来ていただいて、中学生が来ますので、そこで、町長室に連れて行ったり、3階に連れて行ったりとかですね。

私も付きますので。

深澤委員長

ほかにありませんか。

(「ありません。」の声あり)

ないということで、これで、第3回情報推進常任委員会を閉会いたします。

御苦労さまでした。

(11時40分 閉 会)

以上、相違ないことを証するため署名する。

委員長 深澤博幸

以上、記録する。

事務局次長 藤田秀紀